

令和7年度 学校経営方針

京都市立下鳥羽小学校
校長 北村 晃

1. 「令和7年度 学校教育の重点」より

目指す子ども像と3つの姿

*伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども



- ①広い視野と豊かな感性を持ち、よりよい人生やウェルビーイングな社会を創造できる
- ②様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たすことができる
- ③多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となることができる

学校教育において重視する視点

*子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校全体の教育活動の中で高める

学校運営 5つの柱～全教職員が進める確かな学校教育～

- 1 「いのち」子どもの命を守りきる
- 2 「よりそい」多様な子どもが誰一人取り残さない教育を進める
- 3 「つとめ」教職員の職責を自覚し、研鑽することで、教育の質を高める
- 4 「ひろがり」カリキュラム・マネジメントの視点をもって社会に開かれた教育課程を実践する
- 5 「つながり」校種間連携・接続により子どもを支える

「生きる力」をはぐくむ 15 の取組

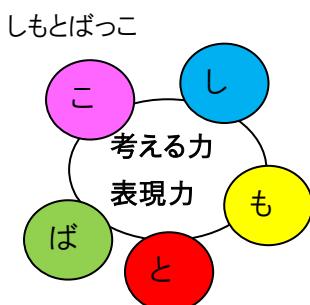
自ら学び、考え、可能性を発揮し、よりよい社会の創り手となる力の育成に向けて



2. 令和7年度 「学校教育目標」

**学びを くらしに活かす 子どもの育成
～学び合い、高め合う集団づくりを通して～**

3. めざす子ども像《しもとばっこ》

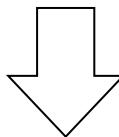


し…「話す」「聞く」ことを基本にした伝え合う力・しっかり話を聞く子
も…目標を明確にし、それに向かってやり抜く態度・目標をもってがんばる子
と…人間関係力の向上や人権感覚の涵養・友だちを大切にする子
ば…自分で考え、判断し、実践する力・はっきりと自分の考えを話す子
こ…適切な言葉を選んで使える力・言葉を大切にする子

いろいろ
考える・表現する



- ・子どもたちが「楽しい」「安心」「大切にされている」と感じられる学校づくり
- ・「自己肯定感」とその実現に向けての場の設定
- ・いじめを未然に防ぐための取組と迅速な対応
- ・安全な学び舎としての環境整備
- ・子どもが抱える問題の早期発見・解決



自己指導能力の育成 (その場の状況を判断して、適切な行動を自分で考えて決めて実行する能力)



確かな学力の育成 (知) ・

重点目標

- 自分の考えをもち、伝え合う子の育成
～みんな「わかる」 楽しく「できる」 この子(個の子)に「届く」確かな学びを保障する授業の在り方～
 - ・社会とのつながり、接続を実感できる授業への改善
 - ・基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実
 - ・探究活動を通した主体的・対話的で深い学び
 - ・グローバル化時代に対応する実践的英語力の育成

豊かな心の育成 (徳)

重点目標

- 目標に向かって、友だちと学び合い、高め合う子の育成。
 - ・道徳教育の充実
 - ・伝統文化や芸術を通じ、豊かな感性・情操を育む教育の充実
 - ・規範意識の育成
 - ・多様性を理解する姿勢の涵養
 - ・支え合い高め合う集団づくりの推進と絆づくり

健やかな体の育成 (体)

重点目標

- 自分が体の主体であることを意識し、生命や健康を大切にして健康的な生活ができる力を持った子を育てる。
 - ・保健教育の充実
 - ・命の大切さを知る
 - ・運動やスポーツの実践と体力の向上
 - ・飲酒・喫煙・薬物に関する指導
 - ・食に関する指導の充実
 - ・安全教育の充実



地域とともに歩む学校づくり

- ・学校と地域・家庭の役割の明確化と、相互の有機的な連携
- ・異校種間の連携や地域のふれあいを通した、豊かな人間性の育成
- ・学校運営協議会の活性化と学校評価を活用した学校経営

★予測不可能な時代を生きる子どもたちのことを考える

- ・これまでの20世紀型と呼ばれる教育からの脱却
- ・どのような力を、どのように育むのか

★コロナ後、新しいやり方で、新しい道を

- ・前例にとらわれない、過去や固定概念からの脱却
- ・学び方/働き方/生き方をかえていく。新しい日常を新しいやり方でつくっていく。

